

令和 7 年度第 1 回
射水市高齢者保健福祉・介護保険事業計画推進委員会会議録

1 日 時 令和 7 年 7 月 1 0 日（木）午後 1 時 3 0 分～午後 3 時 0 0 分

2 場 所 射水市役所（本庁舎）会議室 3 0 2 ・ 3 0 3

3 出席者

(1) 推進委員会委員 1 4 名

宮嶋会長、中堀副会長、野澤委員、道谷委員、野田委員、多比木委員、義本委員、笹本委員、紺谷委員、森本委員、小林委員、森田委員、篠田委員、窪田委員

(2) 事務局 1 3 名

杉本福祉保健部長、菓子福祉保健部次長、柏嶋市民病院看護部長、村中地域福祉課長、黒川介護保険課長、長谷川地域共生推進班長、宮崎地域福祉課課長補佐、種村地域福祉課課長補佐、武田介護保険課課長補佐、坂本保健センター所長補佐、岡田介護保険課認定係長、大居地域福祉課主査、木谷地域福祉課主査

[会議次第]

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) 令和 6 年度の進捗状況等について

ア 射水市の高齢者人口及び要介護等認定者数の推移について

イ 射水市高齢者保健福祉計画・第 9 期介護保険事業計画の実施状況について

4 その他

(1) 報告事項

ア 保険者機能強化推進交付金を活用した保健事業について

(2) 令和 7 年度新規事業について

ア 射水市福祉人材就労定着緊急支援事業について

イ いみず福祉学生応援金について

ウ 第 3 次射水市健康増進プラン（概要版）

5 閉 会

[会議録]

事務局	議題（１）令和６年度の進捗状況について説明
会長	資料１や資料２の数字が前回と表現方法が変わっている。 計画値と実績値があったり、実績値のみの場合もある。 計画書に計画値があれば、記載したほうがよいと思う。
事務局	次回、資料の見直しを実施する。
委員	資料２ ５頁・６頁 健康づくりを支援する環境づくり ヘルスボランティアや食生活改善推進員等で活動するボランティアの方が高齢化しており、教室等を開催するのにも人を集めるのが大変である。ボランティアの資格取得のため、研修会参加が必要な場合があるが、７０歳までと参加制限があったり、平日の日中の時間に開催されていて、働いている人は参加できない。夜間や土日に開催するなど、クリエイティブな発想をもってほしい。 ボランティアに対するやり方、あり方を考える時期にきている。
事務局	ボランティアの養成研修については、今後の活動を考えて、おおむね７０歳までとしている。保健センターでも、ボランティアの方の８割が７０代以上ということで、危機感を抱いており、検討をはじめたところである。
委員	資料２ ３５頁 人材の確保・育成への支援・離職防止で、いみず企業バスツアーは、中止とあるが、せっかくの機会がもったいない。現場にきてもらいたかった。 次回はぜひ、参加者がいるよう、コース設定をしてほしい。
事務局	その他 （１）報告事項 （２）令和７年度の新規事業について、報告及び説明
委員	資料２ ８頁 サロン活動について 地域ふれあいサロン事業は地域支え合いネットワーク事業に一本化され、この事業は廃止されたのか。
事務局	地域ふれあいサロン事業は、令和５年度に地域支え合いネットワーク事業と一本化されたが、補助金は現在も継続している。

	地域住民の社会参加の集いの場であるサロンは、担い手不足等により減少している。地域の社会参加活動が継続できるよう、市は地域支え合いネットワーク事業を引き続き支援していく。
委 員	資料2 25頁 取組に、訪問系サービスの給付実績が計画値、前年度実績を上回っている評価として、「在宅サービスを選択し、住み慣れた地域での生活を継続している人が増えている」とあるが、実際はこんなさわやかな理由ばかりでない。医療ニーズが高く要介護度が高い方は、ショートステイなど施設での介護サービスの利用が難しく、仕方なく在宅で訪問系サービスを利用している人が増えている状況ではないだろうか。
委 員	医療ニーズの高い要介護認定者が、病院でのレスパイト入院ももっと利用できるよう、医療・介護関係者で協議を重ねている。
委 員	認知症の方が多くなっていると感じている。 認知機能検診の受診は、他の疾病の治療につながるきっかけとなる。こうした認知症予防の取組推進について、ケアマネジャーとして引き続き協力していく。
委 員	資料2 13頁 ヤングケアラーの把握方法について 相談者が窓口に行っても、現状を理解してもらえないと聞いている。「把握」するには、理解できる職員の配置がないと難しいと思う。
事 務 局	ヤングケアラーを把握することは、大変難しいと感じている。現状を理解できる職員を育成するためには、職員だけでなく、認知症の人に関わる家族、現役世代や小中学生といった若い世代へ、認知症に関する知識や理解の普及啓発を進めていくことが必要だと感じている。
委 員	資料4 福祉人材就労定着緊急支援事業について 商工会でも、事業所の雇用に関する仕事をしているので、情報共有してほしい。
委 員	あったか相談員で、介護施設をまわると、職員が不足しているとよく聞いている。
委 員	資料2 8頁 地域ぐるみの介護予防活動の支援 地域支え合いネットワーク事業における100歳体操やサロン活動の中心となっている担い手の方の高齢化が進み、地域振興会事務局に事業運

委 員 事 務 局 副 会 長 会 長	営の負担が大きくなっている。 　　今後は、各関係機関が連携し、高齢化社会を乗り切るための議論を重ねながら事業を進めていく必要がある。 　　7年度の新規事業で、6月議会に上がっていた「高齢者世帯のごみの収集」事業なども、市全体の事業として紹介してもらいたかった。 　　また、高齢者の生活・暮らしに関わるので、「のるーと」の関わりについても、もっと触れてほしかった。 　　とにかく、人材確保が必要。人口減、生産年齢の人口減では、介護に人材を呼び込むことは難しいが、誰でも良いわけではない。安易に採用もできなく苦慮している。 　　本日の意見を県の今後の事業の参考にする。 　　コロナ禍明けで、状況が変化している中、地域包括ケアシステムの深化・推進に努力されていることが見受けられた。 　　以上で会議を終了する。
---	--